

月例報告 (2023 年 4、5 月提出)

2021-22 年度 地区補助金奨学生

スウェーデン・ヨーテボリ大学

和田 哉恵

修士論文、アルバイト、また論文提出直前の引っ越しで目まぐるしい日々を送っており、月例報告の提出が遅れてしまい申し訳ございません。先日無事に修士論文を提出し、スケジュール的にも余裕が出てきてようやく安心していきます。本日 (6/7) は、夕方に大学で行われる卒業の祝賀会・セレモニーに参加する予定です。卒業の祝賀会・セレモニーと言っても、修士課程修了予定の生徒数名と教員、在校生、更に修了生のゲストなどを招いての小さなカジュアルな集まりになりそうです。スウェーデンは、大学よりも高校の卒業式のお祝いが盛大に行われる文化があり、この時期はクラスでトラックを貸し切ってお祝いをしているのを街中でよく見ます。日本のように決まった日ではないようで、6月に入ってから約2週間、そのようなトラックやお祝いの様子を見かけるとクラスメートも言っていました。そんな私も来週パートナーの妹の高校の卒業式に参加する予定です。

修士論文の提出は終わりましたが、論文が実際に Examiner の教員に審査され、さらに修士修了証が発行するまでに数か月を要するようなので、また修了証が発行された際に本修士課程で学んだことのまとめは別の月例報告にて行おうと思います。今回の月例報告では、最近卒業後の進路が確定したので、そのことについてお話ししようかなと思います。

夏休暇を終えた 8 月から、Stockholm Environment Institute (SEI) という研究機関の Gender Equality, Social Equity, Poverty (GESEP) プログラムで半年間インターンシップを行う予定です。3名の枠に70人ほどの応募があり、面接に呼ばれただけでも大変光栄だったので、実際に朝面接した日の夕方に採用の連絡を頂いたときは、喜びはもちろんですが驚きの方が大きかったです。研究機関名にストックホルムとありますが、1972年に発表されたストックホルム宣言に由来するもので、HQはストックホルムにあるものの、実際には世界各国に部署のある国際的な環境研究機関です。私の配属されるプログラムはプログラム名にもあるように、ジェンダー平等、社会的公平、貧困などの社会的持続可能性の視点を、環境的持続可能性に関する研究プロジェクトに取り入れることを目標に掲げています。私が行う予定の課題は、主にクリーンエネルギーへの移行が住民へ及ぼす影響についてです。昨年受講した授業でもクリーンエネルギーへの変換がアパートメントの家賃の高騰に繋がり、貧困層の住人が退去を余儀なくされるという Green Gentrification という問題についても学びました。サステナビリティを実現するには環境面だけではなく、社会的な側面も考慮にいった holistic な視点が必要であると考えているので、実際にそれを目標に掲げている研究機関・プログラムがあり、さらにそこで働く研究者が私のこれまでの経験や考え、将来描いているビジョンに興味を持って頂き、採用まで繋がったというのが大変嬉しく感じています。実際に採用まで繋がったのも、学外のメンター制度でお世話になっているメンターのアドバイスや友人、パートナーからの支えのお陰でもあり、彼らへの感謝はしてもし

きれません。秋からも学びの多い日々になりそうで今から楽しみです。また修士課程の修了証が受理された際に、インターンシップの近況報告についても共有出来たらなと考えています。